

東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）における各地の状況 その三

小児神経メーリングリスト：蔵王セミナーMLで流れた内容を、個人名を除いて抜粋してます。

群馬県立小児医療センター 神経内科 椎原隆

shiihara@gcmc.pref.gunma.jp

2011年3月18日

1. 国立病院機構派遣隊からの、釜石方面の医療状況報告

xx 部長が活動されている現地対策支部（花巻、釜石）の方は現在、岩手県の山田町にいます。

情報によると、NH0を含めて全国から医療班が多数入ってきており

花巻、釜石、山田町の方面については医療支援は充足しているとのこと。

仙台医療に設置している現地対策本部の方は、現在、避難所の巡回診療を行っているようで

震災で負傷された方の治療ではなく、高血圧や糖尿病などの慢性疾患の患者を診ているようです。

（インシュリンなどが不足しているようですが、医療材料や医薬品、食材については仙台医療に向けて輸送中）

また、本日13時に看護師の応援部隊が仙台医療と宮城病院に向けて出発をする予定です。

機構の支援状況についてはHPにて更新をされているようですが、

<http://www.hosp.go.jp/news/detail.1.9083.html>

あまり詳しい情報は掲載されておりませんので

私の方で不定期ではございますが情報提供をさせていただきます。

（なお、私の方も災害対策本部の業務を優先しておりますので、このメールアドレスは殆ど確認ができませんのでお急ぎのご用件がございましたら、お電話をいただければ幸いに存じます。）

被災された先生方におかれましては、地震発生後1週間が経過し

心身ともに疲労が限界に達している頃ではないかと思われませんが、

支援の輪は機構全体に広がっており、機構の全職員が皆様の無事を願っております。

また、被災地以外の病院でも計画停電や被災地からの患者の受入、医療班の派遣等の対応で

非常に緊迫した状況にあるかと存じますが、体調など崩さぬようお体をご自愛くださいませ。

2. 宮城県立こども病院

あちこちの情報によりますと、

県内は感染症、特にH3N2香港型が流行の兆しとか。

避難所は非常に感染症が流行しやすい状況ですので、

タミフルは多めに持って行かれる方が良いかと思えます。

胃腸炎も出ているので、OS-1でもいいですが、

現地（というか仙台市内）でもポカリスエットすら入手困難という訳のわからない状態ですので、どちらか入手しやすい方でもかなり助かるかもしれません。

とにかく現地はガソリンが無いので、往復の燃料確保がまず大事かと……

#昨日から緊急車両専用GSが出来ましたが。

#患者さんから受診どうしようか相談電話が来るたびに、安否確認の次にガソリン確認をしています。

3. 石巻赤十字病院小児科

石巻赤十字病院小児科のxxxxと申します。

前回の蔵王セミナーに参加するにあたり、MLに登録させていただいていました。

今回の震災では赤十字関連を含めて膨大な支援をいただき、何とか急性期を脱しつつある状態です。皆様本当にありがとうございます。

ようやく携帯電話でネット環境につながるようになったため、皆様のメールのやりとりの全部には目を通せていませんが、一度東北大学のxx先生からの報告がありましたので、それに追加させていただきたいと思います。

石巻市の南半分は水没し壊滅的な状態で、街としての形が留まっている当院周辺の地域ではようやく2日程前から電気、水道が通り始めています。

当院の建物自体は新しく、免震構造となっているため大きな被害はありませんでしたが、行政や日赤本社ともなかなか連絡がとれず、食料すら届かない状態が続き、何とか自家発電、貯水槽、給水車で病院機能を維持し、水没した東松島の自衛隊基地の滑走路の復旧を終えた4日目の朝から、急速に物資が入るようになりました。

発生翌日からは津波で流された人が次々とヘリやボートで救出され、当院へ運ばれて来ましたが、比較的軽症の低体温のみの人が多いにもかかわらず、行き場がないため院内の至るところにあふれかえっていました。

通信が全く麻痺していたため職員でも家族と連絡がとれない人がほとんどでしたが、とにかく病院を機能させるために、心を鬼にして、身一つの方々を避難所行きのバスに乗せました。

小児科病棟は産科と合同病棟のため、この地域の分娩を一手に引き受けるために、家族と連絡のつかない入院患児も避難所に退院させ、産後も通常より退院を早めています。

現時点では被災そのものによる受診というのはほぼなくなり、特に小児科は一般外来のような主訴の受診ばかりですが、その児が今どういう生活環境にいるのかにより、対応を変えていかなければならない状況です。

食料・水分が手に入らない人が多いので、支援物資のOS1を活用させていただいています。

津波で車を流された人も多く、ガソリンも救援車両や病院へ通勤するスタッフの分も足りない状況を考えると、市民の手に届くのはいつになるかわからず、具合が悪くても受診できない人がどのくらいいるのかまだ把握しきっていません。

今後も増え続けることは予想されるため、巡回診療や出張診療所の設営が課題になっていきそうです。

全国の日赤病院の医療救援チームを含めて、大きな組織で動いていますので、私のような末端からの情報では不正確な部分も多々あるかと思いますが、せっかくのMLなので、一医師の見た物として発

信させていただきました。

御支援いただく先生方、本当にありがとうございます。

雪が降ったり、風が強かったり、厳しい気候ですが、体調崩されないようお気をつけ下さい。

窃盗や強盗など物騒な話も聞こえてきますが、元々は港町で情の厚い人が多い所ですので、少しでもこの地域の現状が良くなるよう御協力いただければ幸いです。

よろしく願いいたします。

4. 土浦協同病院（茨城県）

茨城県の近況です。

茨城県は、人口300万人、面積6100平方km、可住地面積4000平方kmで、茨城県内の病院小児科は29施設、入院対応の病院小児科23施設があります。2011.03.17の震災6日目時点で、1施設が入院中止、10施設34%が外来機能制限、16施設55%が手術制限（安全確認・点検中を含む）しています。

病院機能低下の要因は断水と物流です。水不足は透析、手術、臨床検査、等をストップさせ、物流麻痺は医薬品・医療材料、重油等の供給をストップさせました。電話がつがなりにくく、病院間の連絡に支障を来しています。停電のため在宅人工呼吸児がいっせいに入院しました。断水地域でロタウイルス腸炎が増えてきました。ガソリン不足によるアクセス不良で小児の受診タイミングが遅れ始めています。余震とテレビにおける災害画像の反復が子どもの心への影響を与え始めています。

2011.03.18、常磐線（土浦まで）、つくばEX、常磐道（水戸まで）が復旧しましたので、週明けには、県北地域以外は通常業務へ戻せる予定です。

福島県からの避難者を受入始めています。岩手、宮城県の避難所の状況をみると、避難者をさらに安全な所へ移動させることも必要・有効と思います。また、アクセス不良・情報不足のため、電話が可能になれば電話相談が有効なツールになるでしょう。災害医療は未経験で、皆様のご意見、ご指導が、大変役立っています。